

シンポB-1

トラック運送事業に於ける事故事例 と予防策

～トラックの交通事故の予防について～

株式会社セイノー商事

大塚 正視

西濃運送株式会社は昭和 21 年設立の路線トラック運送事業者であります。平成 17 年 10 月 1 日純粋持株会社であるセイノーホールディング株式会社に改変した際、新設した西濃運輸株式会社に事業継承を行って、現在の西濃運輸となりました。セイノーホールディングは輸送グループ 36 社、自動車販売グループ 6 社、関連事業グループ 15 社の 58 社で約 26,000 人の従業員で資本金 424 億 8100 万円、平成 19 年 3 月期の売り上げ 4494 億 85 百万、経常利益 170 億 7 百万円であります。その中核会社である西濃運輸は従業員 13,000 人、保有車両数 11,686 台を有し、カンガルーマークの貨物自動車が 24 時間体制で日本全国を運行し一ヶ月で 2800 万 km (地球 700 周) の運行距離となっております。

トラック運送事業者にとって、輸送にかかわる「安全」はあらゆる事業活動に優先する事柄であります。しかし、昨今、新聞の社会記事として、掲載されている飲酒運転や過労運転による車両事故がプロのドライバーによって引起されているのも事実であります。事故を予防するための「安全マネジメント」の導入とコンプライアンスの確保などを始めとして、業務フローの中で日常的に事故予防の施策が実施されるマネジメントのシステムを構築することなくしては道路運送を業とする事業者はその業を継続していくことは出来ないと考えております。さらに、事故の発生事例の現象面から、根底に潜む原因分析と再発予防の施策が積み上げられてゆくことで、社内に安全に対する知識とノウハウが系統だって構築されることが必要であります。最後に万一の事故の場合においても被害者の保護を目指し、衝突安全機能を強化した世界で初めての小型集配用先進安全車両《ASV(Advanced Safety Vehicle)》を西濃運輸が試験導入したので、事例紹介をさせていただきます。

シンポB-2

視空間認知とその障害

～見える範囲と見えない範囲～

昭和大学 医学部 神経内科

高橋 伸佳

われわれを取りまく外空間は大きく 2 つに分けることができる。一つは部屋の中や広場など、目の前に見える比較的狭い空間（「見える範囲」）である。他の一つは自分の住む街や市など、一度に見渡すことのできない広い空間（「見えない範囲」）である。視空間認知機能とは、これらの空間内における個々の対象の位置、あるいは複数の対象の相互の位置関係を把握する能力をいう。

「見える範囲」の視空間認知障害は、Bálint 症候群 (Bálint, 1909) あるいは視覚性失見当 (visual disorientation : Holmes, 1918, 1919) として古くから知られている。患者は、目の前に見える物品の位置や複数の物品の位置関係がわからなくなる。対象の大小・長短の識別や物体の立体感が障害されることもある。患者は対象物をつかもうとして異なる方向に手を伸ばす。また、移動に際して方向を誤ったり、障害物にぶつかったりする。頭頂葉外側面、特に右下頭頂小葉の病変で生ずる。

一方、「見えない範囲」の視空間認知障害は「道順障害」と呼ばれる。患者は自宅付近、職場付近など以前から熟知しているはずの場所で道に迷う。また、新しい場所は何度行っても覚えられない。現在いる場所から目的地までの方角や、広い地域内での 2 地点間の位置関係がわからなくなるからである。この障害は、脳梁膨大後域から頭頂葉内側面にかけての病変で生ずる。やはり右側病変例が多い。